

令和3年度第2回岐阜県先端科学技術体験センター指定管理評価員会議

1 日時

令和4年1月25日 14:00～15:30

2 場所

岐阜県先端科学技術体験センター会議室

3 出席者（敬称略）

評価員 : 4名（小木曾 純子、高橋 信一、藤井 志保、三宅 崇）

[開催日時点評価員数：4名]

指定管理者 : (株) トータルメディア開発研究所 2名 (PPP 推進部 部長、担当)

中電興業(株) 1名 (展示館サービス部 副長)

館職員 4名 (館長、副館長、総務課長、利用促進課長)

岐阜県 (事務局) : 文化伝承課 3名 (課長、教育文化係長、担当)

4 議題

- ・令和4年度の事業計画について

5 議事要旨

- ・資料に基づき令和4年度の事業計画について説明

【質疑応答等】

- ・三宅評価員

オンライン事業はコロナ禍が収束した場合でも継続していくのか。

- ・指定管理者 ((株) トータルメディア開発研究所 PPP 推進部 部長)

科学館にとって、インターネットを活用した事業展開は今後長い年月をかけて取り組まなければならない分野だと考えていた。コロナ禍によって推進しやすい状況になっただけであり、収束状況に関係なく今後もオンラインでの展開は行っていく考えである。

- ・三宅評価員

既存の事業に加えオンライン事業が増えているが、業務量が増えた分を既存事業等、別の部分で縮小していく考えはあるか。

- ・文化伝承課 担当

現時点では既存の業務とオンライン業務の両立ができているため、縮小は考えていない。しかし、今後両立が厳しくなることも十分考えられるため、いただいたご

意見を踏まえ、今から縮小できる業務を検討していく。

- ・高橋評価員

オムニチャンネル型事業にワークショップの記載があるが、ハイブリッド方式としてオンラインでの参加と対面での参加を同時に行うということか。

- ・指定管理者（(株) トータルメディア開発研究所 PPP 推進部 部長）

提供する内容によってオンラインに適したものと来館したうえで実施することに適したものがあるため、全てのワークショップをハイブリッド型にするわけではなく、提供方法を使い分けていくものである。

- ・藤井評価員

今年度実施したオンラインプログラムはどの地域の方が参加したのか。

- ・指定管理者（総務課長）

今年度の参加者は岐阜、愛知の方が中心だった。

- ・三宅評価員

事業計画書案の学校教育等支援事業の部分に例示として DNA に関するものが書かれているが、生物だけでなく物理や化学の分野を希望する学校もあると思う。DNA 以外のプログラムは何を提供予定なのか。

- ・指定管理者（副館長）

物理だと「液晶リング」「熱とエネルギー」「高温の科学」等、化学だと「酸化チタンの光触媒効果」等のプログラムを準備している。

【評価員による総評】

- ・小木曾評価員

オムニチャンネル型事業としてオンラインとリアルでの事業展開をすることで業務の幅が広がり、より多くの方に利用していただける点を評価する。

- ・高橋評価員

サイエンスコミュニティの発展は重要と思われるので、更なる拡大を期待したい。新型コロナウイルス感染症の影響で需要の高まっているオンライン事業や出張ワークショップ等の充実や事業展開の成功を期待している。また、対面事業での体験とオンライン事業での体験の相乗効果を追求していただきたい。

- ・藤井評価員

サイエンスワールドが瑞浪市にあることを動画配信等によって他の地域の方に知って貰い、他県からの利用が増えるとよい。

未就学児向けの科学体験事業を提供することで、未就学児の段階からサイエンスワールドに関わっていける環境をつくり、科学を仕事にしていく子どもたちを育てていくという流れは良いと思う。

- ・三宅評価員

オンラインツールの活用は、岐阜県だけでなく他の地域にも広報するきっかけになる等、施設にとって理があると思う。ただ、従来の事業を実施しながらオンラインツールも行っていくことは負担の増加につながっているため、負担が増加しない形でオンライン事業を組み込んでいく必要があると思う。